

白山ゾーン

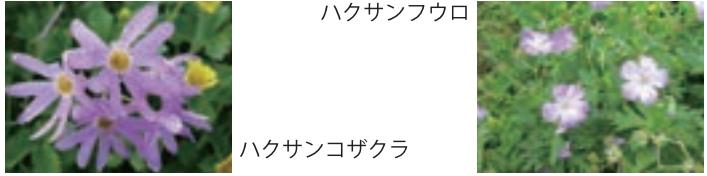
白山手取川ジオパーク最高峰の白山を含み、最も南に位置しています。白山手取川地域の水の源となる大量の雪が降り積もり、**水の旅が始まる場所**と言えます。

白山は活火山であり、非常に崩れやすい大地でもあるため、現在の**石の旅が始まる場所**ともなり、地域一帯にもたらす影響が大きいところです。また、火山活動がもたらした地形の複雑さや大量の雪などは、**動植物の多様性**にもつながっています。雄大な白山の姿は、周辺地域に暮らす人々にとって、今も昔も象徴的な存在です。

このゾーンは白山手取川ジオパークの源であり、**水の旅と石の旅が始まり、還る場所**、そして、すべての地域と結びつきがある場所です。

咲き誇る多彩な高山植物

ジオ エコ ヒト



白山禅定道と様々な遺構

ジオ エコ ヒト

四塚

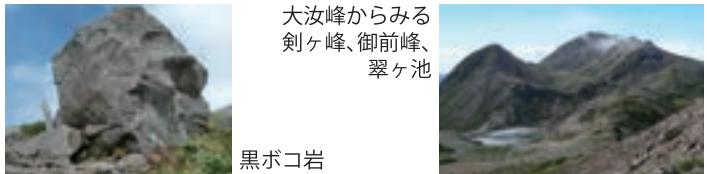


日本海



火山活動の名残

ジオ エコ ヒト

大汝峰からみる
剣ヶ峰、御前峰、
翠ヶ池

黒ボコ岩

寒冷地域に見られる地形

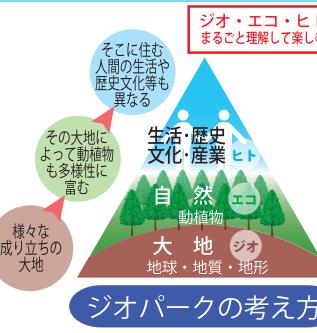
ジオ エコ ヒト

周氷河地形（階状土）



ジオパークとは？

「大地の物語（ジオ）」、「自然（エコ）」、そしてそれらと私たちの「生活、歴史、文化、産業（ヒト）」との関わりを学び、楽しむ場所です。

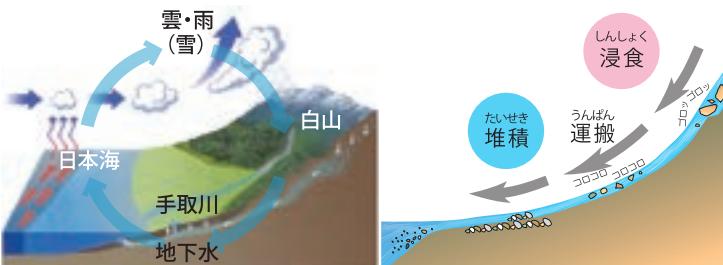


白山手取川ジオパークの物語

テーマ 山一川一海そして雪
いのちを育む水の旅

日本海から白山へもたらされる大量の雪・雨（水）は、手取川を経て日本海に戻ります。その水の旅の中には、過去から続く石の旅も見られます。

～ 水の旅と石の旅 ～



アクセス



- 北陸自動車道白山ICから別当出合まで約110分
- 北陸自動車道小松ICから別当出合まで約110分
- 北陸自動車道福井北ICから別当出合まで約110分



白山砂防

白山手取川ジオパーク

山一川一海そして雪
いのちを育む水の旅

ジオ エコ ヒト



崩れやすい大地

ジオ エコ ヒト



土砂災害と砂防施設

ジオ エコ ヒト

柳谷導流落差工



問い合わせ

白山手取川ジオパーク推進協議会
〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地
TEL : 076-274-9564 / FAX : 076-274-9546
E-mail : geopark@city.hakusan.lg.jp /
HP: http://hakusan-geo.main.jp/

白山砂防

白山は、その大地の成り立ちや、大量の積雪による雪解け水の存在、活火山地域であるため熱水の影響など様々な要因によって、非常に崩れやすくなっています。周辺では、地すべりや土砂くずれとともに、土石流災害が何度も発生してきました。特に、昭和9年に発生した大洪水では、死者、行方不明者が112名にも及びました。白山周辺で発生した地すべりなどは、手取川流域の大洪水に影響を与え、ジオパーク内各地には傷跡が残っています。災害から流域住民を守るために、白山の谷では、大正元年（1912年）から砂防工事が行われてきました。主要な登山道である「砂防新道」は、砂防工事のために造られた道であり、周辺では土砂くずれの跡や砂防施設を見ることができます。



白山砂防の主な歴史

明治 24 年	濃尾地震発生
明治 27 年	豪雨による甚大な被害
明治 29 年	
大正 元 年	石川県が砂防事業に着手
昭和 2 年	直轄（国営）砂防事業に着手
昭和 9 年	手取川大洪水による甚大な被害 百万貫の岩流出
昭和 37 年	甚之助谷地すべり対策事業に着手
平成 16 年	土石流が発生し、別当谷吊り橋が流出
平成 24 年	甚之助谷砂防堰堤群が選奨土木遺産に認証 白山砂防 100 周年



登録有形文化財

甚之助谷砂防堰堤群などの5施設は、国の登録有形文化財に登録されています。（平成24年2月）

- ・甚之助谷第二号谷止工
- ・柳谷第7号砂防堰堤
- ・甚之助谷上流第16号砂防堰堤
- ・御鍋砂防堰堤
- ・甚之助谷砂防堰堤群（11基）



山頂付近図



関連するジオスポット

白山砂防科学館



白山の砂防事業の歴史や自然、地質、人々の暮らしについて学ぶことができます。

〒920-2501
石川県白山市白峰ツ40-1
☎076-259-2990
■開館時間：9:00～17:00
■休館日：毎週木曜日・年末年始（木曜日が祝日の場合は翌日休館）
■入館料：無料

百万貫の岩



手取川の上流部の河原には、高さ約16m、周囲約52m、重量約4,800tの巨大な転石があります。この岩は、昭和9年に発生した大洪水の際に、上流より流れ出たと考えられています。

1 別当大崩れ



砂防新道の別当覗から、昭和9年の記録的な豪雨の際に崩壊した跡を見ることができます。崩壊した土砂量は約460万m³（東京ドーム約4杯分）と言われており、その一部は下流へ土石流となって流れ、川沿いの集落を襲いました。

2 柳谷砂防堰堤群



砂防新道沿いの中飯場などから、柳谷に造られた砂防堰堤群などを見ることができます。砂防堰堤に土砂が貯まることで、谷の浸食や斜面の崩壊を防いでいます。

3 甚之助谷谷止工



南竜道分岐の近くでは、白山砂防の中で最初期に造られた谷止工の一つを見ることができます。標高2,000mを超える高地の施設で、当時は日本で最高所の砂防施設でした。

